

決算期 3月31日
定時株主総会 毎年6月
配当金受領 利益配当金 毎年3月31日
株主確定日 中間配当金 毎年9月30日
1単元の株式数 100株
名義書換代理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付および電話照会先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
(その他のご照会) ☎ 0120-176-417
同取次所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法 日本経済新聞に掲載いたします。
ただし、貸借対照表および損益計算書に係る情報は、
<http://www.lamick.co.jp/kessan/index.html>
において提供いたします。

株主優待のお知らせ

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈しています。

毎年、3月31日または9月30日現在の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載された当社株式を100株以上所有している株主の皆さまに「食品詰合せ」をお届けいたします。

なお、今回は6月下旬に発送いたします。



今回送付の食品詰合せ写真



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い換えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れ当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。



第40期 事業報告書

平成16年4月1日～平成17年3月31日

大成ラミック株式会社

証券コード 4994

社名 大成ラミック株式会社 (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
所在地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
お問い合わせ 総務部 IR担当：TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

●本報告書は、100%再生紙を使用しています。

Profile

当社は、液体・粘体包装フィルムと高速自動充填機の両方を手がける唯一のメーカーです。

食品業界をはじめスーパーマーケット、コンビニエンスストア等さまざまな業種の包装ニーズに的確に応えて液体・粘体包装のパイオニアとして業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に集中・特化させ、独創的なシステムを構築することにより、トップブランドとしての地位を築いています。



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、第40期事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の業績

当期におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景にした底堅い設備投資、持ち直しつつある輸出環境や雇用の不足感も出始め、個人消費は横ばいから回復の動きも見られ、景気は一部で停滞感が残るものの踊り場を脱し緩やかな回復局面にあります。一方、昨年夏からの原油価格の騰勢による素材・原材料価格の高騰などが及ぼす影響で先行き予断を許さない状況であります。

当軟包装資材業界におきましては、原油価格の高騰によりナフサ（粗製ガソリン）価格、石油化学製品が大幅に値上がりしたことにより、業界各社は、樹脂、フィルムなど原材料の相次ぐ値上げを受け入れて製品売価への転嫁に努めております。しかし食品業界や流通業界の川下に行くほど値上げが困難な状況が続く、収益面、供給面で企業間格差がつき始めております。

このような状況のもと、当社は、短

納期・少ロット生産技術と安定供給の強みを生かし、徹底したコストダウンを図る一方、原材料価格の値上がり分を製品売価に転嫁しました。さらに、食品業界に加え化粧品・健康食品業界へ積極的な販売活動を行い売上の拡大に努めました。

その結果、売上高は134億87百万円（前期比6.0%増）となり、利益面では、経常利益は13億79百万円（同12.2%増）、当期純利益は8億5百万円（同13.9%増）と増収増益となりました。

今後の経営戦略

今後の経済見通しは、原油価格・海外経済・為替動向など不透明な要因もありますが、景気は総じて踊り場を脱し緩やかな回復が続くと思われれます。しかしながら、当社が主力とする食品業界は競争の激化による商品単価の下落などが続き依然厳しい環境が見込まれます。

このような状況のなか、包装フィルム部門におきましては、原材料価格が高値で推移すると見込まれますが、当社は製品売価に転嫁するとともに低コスト・短納期一貫製造ラインを構築し、生産性の向上並びに徹底したコストダウンを図り、液体包装市場においてさらにシェアアップしてまいります。

包装機械部門におきましては、引き続き「NT-DANGAN」および新規開発商品である「NT-DANGANオートスプライズ一体型」の拡販、新規販路である化粧品、健康食品などの非食品分野へ積極的な販売活動を進め、ユーザーへの真の生産性向上に貢献することを目指してまいります。

また、当社のラミネーション複合化技術、高精度高速ヒートシール技術を活用した非接触ICタグなど将来の事業基盤強化に向けた研究開発、量産化を迅速に行ってまいります。

次期の見通し

今後の経済見通しは、景気は総じて踊り場を脱し緩やかな回復が続くと思われれますが、当社が主力とする食品業界は、依然厳しい環境にあります。

平成18年3月期の業績見通しにつきましては、売上高142億52百万円（前期比5.7%増）、経常利益14億33百万円（同3.9%増）、当期純利益8億55百万円（同6.3%増）を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

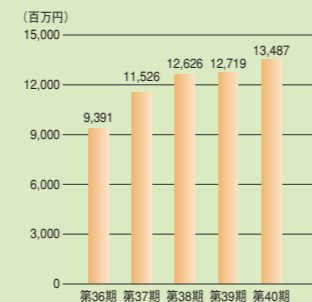
代表取締役社長 **木村 登**

Financial Highlights 業績ハイライト

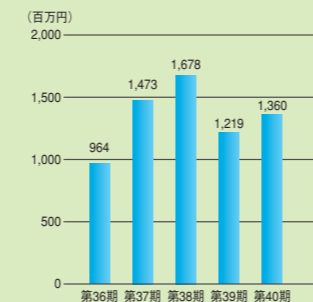
表紙の絵

洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。

■売上高



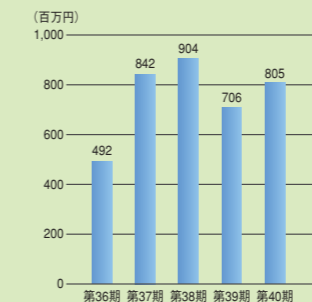
■営業利益



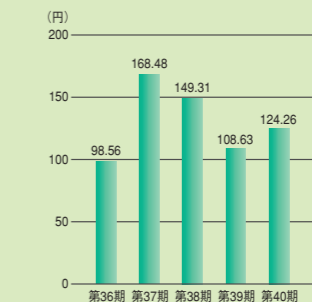
■経常利益



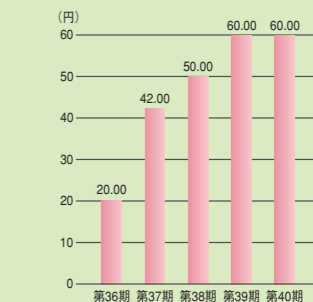
■当期純利益



■1株当たり当期純利益



■1株当たり配当金



包装フィルム部門

■ 事業内容

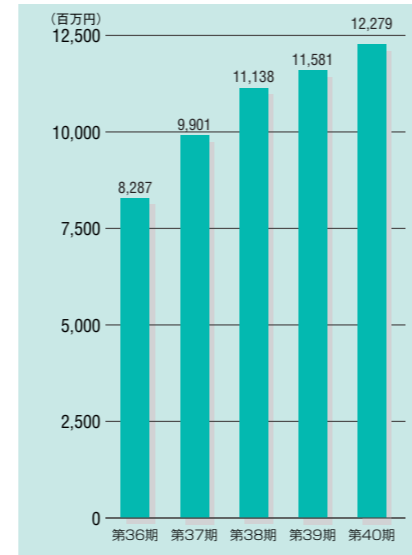
主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび、からし、ドレッシングなどを入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレットリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

当社が主力とする食品業界は、4月からの消費税総額表示による買い控え傾向や消費者の低価格志向、競争の激化による商品単価の下落などにより依然として厳しい状況が続きました。

このような状況に対応し、当社は春夏商品として、冷し中華、そば・うどんつゆ、ドレッシング類の猛暑関連商品の取込み、ラーメンスープ、おでんつゆ、なべものスープなどの冬物商品のフィルム受注に全力を挙げて注力いたしました。また、営業所を始めとした営業力の強化を図り、化粧品や健康食品業界への新規開拓・さらなる深耕を積極的に展開するとともに、原材料価格値上がり分の製品売価への転嫁を推し進めてまいりました。

その結果、包装フィルム部門の売上高は122億79百万円（前期比6.0%増）となりました。

■ 包装フィルム部門売上高推移



包装機械部門

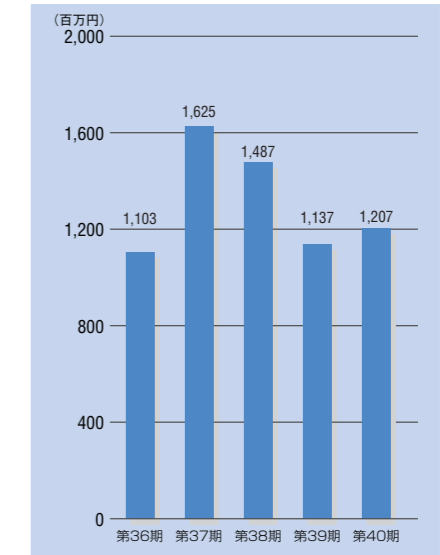
■ 事業内容

当社と日本精機（株）が共同開発した高速液体自動充填機を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカーなどに販売を行っています。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は、「NT-DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれなどの少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パックなどの大容量専用機」などの開発・販売を行っています。

高速自動充填機「NT-DANGAN」につきましては、期の後半になり、新規設置、中・大袋の需要に対応した「大容量・大々容量タイプ」、連続生産を可能にする「NT-DANGAN オートスプライズ一体型」など前向きな引合い、商談が活発化し、その受注・販売に全力を挙げました。

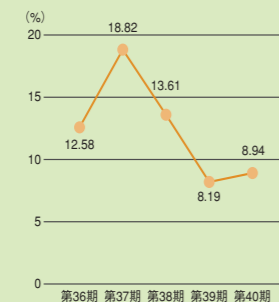
その結果、包装機械部門の売上高は12億7百万円（前期比6.1%増）となりました。

■ 包装機械部門売上高推移

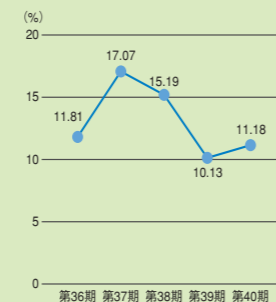


Financial Highlights 業績ハイライト

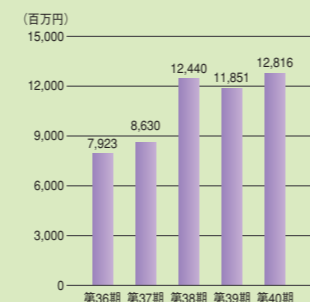
■ 株主資本利益率



■ 総資産利益率



■ 総資産



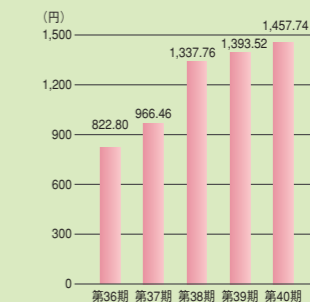
■ 株主資本



■ 株主資本比率



■ 1株当たり株主資本



液体・粘体包装市場をリードする 独創的なビジネスモデル

大成ラミックの強み

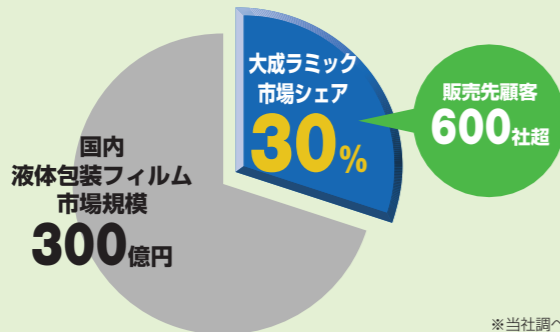
当社の成長を支える最大の理由は、限られた経営資源を高付加価値製品に集中・特化させた事業戦略にあります。

創業当初は包装セロファンなどの汎用フィルムを加工販売していた当社は、大手印刷会社との競争が厳しいことを直視し、液漏れなどのリスクから技術的に困難とされた「液体・粘体包装」事業に経営資源を集中させました。

さらに当社は独自ビジネスモデルの構築を目指し、高速自動充填機「NT-DANGAN」を開発。同機をフィルム製品と併せて、お客様の生産性と品質の向上に貢献するシステムとして販売する提案型営業を日本全国で展開しました。

現在のお客様は、大手即席麺メーカーから地域の食品メーカーまで約600社以上に及んでいます。安全性や品質管理など多様な課題に応えるべくハード（充填機）とソフト（フィルム）の両面から、お客様に的確なソリューションを提供しています。

国内液体包装フィルム市場における当社のシェア



多色印刷機の増産ライン

生産能力の拡充

当社が受注・生産する調味料用小袋は、年間で1万アイテムもあり、そのほとんどが短納期での生産を求められています。

当社では、そうしたニーズに応え、高い生産性と安全性を誇る独自のフィルム製造技術を駆使して、多品種・短納期にて生産する一貫生産体制を確立しています。

さらなる生産体制の強化を図るため、平成15年に新工場を増設。生産能力が大幅に拡充され、多様化する市場の要請に応えています。

多品種・短納期一貫生産体制を強化



本社新工場

新製品開発

当社では事業基盤強化に向けて研究開発体制を充実させ、新製品および新事業の開発に積極的に取り組んでいます。

なかでも、リサイクル紙とラミネートフィルムを用いて酸化や劣化を防ぐ液体用複合容器「PIC」は、ペットボトルなどに代わる次世代包装容器として、高い需要が見込まれています。

今後も時代の流れを的確に捉えて「液体・粘体包装」事業の可能性を最大限に上げていきます。



PIC（パウチインカートン）

貸借対照表

| 科目 | 第40期 | 第39期 |
|-----------------|---------------|---------------|
| | 平成17年3月31日現在 | 平成16年3月31日現在 |
| ●資産の部 | | |
| 流動資産 | 8,007 | 7,260 |
| 現金及び預金 | 2,353 | 2,100 |
| 受取手形 | 1,068 | 1,266 |
| 売掛金 | 3,049 | 2,477 |
| たな卸資産 | 1,390 | 1,279 |
| その他 | 150 | 140 |
| 貸倒引当金 | △ 4 | △ 3 |
| 固定資産 | 4,809 | 4,591 |
| 有形固定資産 | 4,249 | 4,029 |
| 建物 | 2,081 | 2,123 |
| 機械及び装置 | 972 | 689 |
| 土地 | 839 | 839 |
| その他 | 355 | 376 |
| 無形固定資産 | 122 | 119 |
| 投資その他の資産 | 437 | 441 |
| 投資有価証券 | 366 | 253 |
| その他 | 87 | 202 |
| 貸倒引当金 | △ 16 | △ 14 |
| 資産合計 | 12,816 | 11,851 |

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

売掛金
期の後半になり、包装機械の受注が活発化した結果、売掛金が増加しました。

(単位:百万円)

| 科目 | 第40期 | 第39期 |
|-----------------|---------------|---------------|
| | 平成17年3月31日現在 | 平成16年3月31日現在 |
| ●負債の部 | | |
| 流動負債 | 3,460 | 2,894 |
| 買掛金 | 2,410 | 2,067 |
| 未払金 | 539 | 340 |
| 未払法人税等 | 306 | 217 |
| 未払消費税等 | 20 | 100 |
| 賞与引当金 | 170 | 151 |
| その他 | 13 | 17 |
| 固定負債 | 150 | 155 |
| 退職給付引当金 | 88 | 97 |
| 役員退職慰労引当金 | 61 | 58 |
| 負債合計 | 3,610 | 3,049 |
| ●資本の部 | | |
| 資本金 | 2,408 | 2,408 |
| 資本剰余金 | 2,896 | 2,896 |
| 利益剰余金 | 3,860 | 3,487 |
| その他有価証券評価差額金 | 40 | 9 |
| 資本合計 | 9,205 | 8,801 |
| 負債及び資本合計 | 12,816 | 11,851 |

ここがポイント!

資本
当期末の株主資本は、9,205百万円となり、株主資本比率は71.82%となりました。

損益計算書

| 科目 | 第40期 | 第39期 |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成16年4月1日から平成17年3月31日まで | 平成15年4月1日から平成16年3月31日まで |
| 売上高 | 13,487 | 12,719 |
| 売上原価 | 10,188 | 9,665 |
| 売上総利益 | 3,299 | 3,054 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,938 | 1,834 |
| 営業利益 | 1,360 | 1,219 |
| 営業外収益 | 31 | 25 |
| 営業外費用 | 12 | 14 |
| 経常利益 | 1,379 | 1,230 |
| 特別利益 | — | 41 |
| 特別損失 | 37 | 11 |
| 税引前当期純利益 | 1,342 | 1,260 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 535 | 558 |
| 法人税等調整額 | 1 | △ 4 |
| 当期純利益 | 805 | 706 |
| 前期繰越利益 | 141 | 183 |
| 中間配当額 | 189 | 157 |
| 当期末処分利益 | 757 | 732 |

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

売上総利益
原油価格の高騰による原材料価格値上り分を製品売価へ転嫁したことにより、売上総利益率は改善しました。

キャッシュ・フロー計算書

| 科目 | 第40期 | 第39期 |
|--------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成16年4月1日から平成17年3月31日まで | 平成15年4月1日から平成16年3月31日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,119 | 771 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 455 | △ 523 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 408 | △ 345 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | — | — |
| 現金及び現金同等物の増加(△減少)額 | 255 | △ 97 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,290 | 1,388 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,546 | 1,290 |

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は4億55百万円となりました。これは主に、本社新工場生産設備等の有形固定資産の取得による支出4億74百万円によるものです。

利益処分

| 科目 | 第40期 | 第39期 |
|------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成16年4月1日から平成17年3月31日まで | 平成15年4月1日から平成16年3月31日まで |
| 当期末処分利益 | 757 | 732 |
| 任意積立金取崩額 | 2 | 2 |
| 利益処分額 | 636 | 593 |
| 配当金 | 188 | 220 |
| 役員賞与金 | 22 | 22 |
| 任意積立金 | 425 | 350 |
| 次期繰越利益 | 123 | 141 |

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

配当金
当期は、中間配当と合わせ、1株当たり60円の年間配当を実施した結果、配当性向は48.29%となりました。

TOPICS 1



高速液体自動充填機
「NT-DANGAN Type L」(大袋仕様)

業務用大袋充填の生産性を向上させる NT-DANGAN Type Lが好評です

昨年発売された「NT-DANGAN Type L」は、新分野となる業務用大袋を対象とした充填機で、最大2リットルの充填量を誇り、従来から使用される缶やペットボトルなどに比べ、大幅なコストダウンが図れます。

食の安全やコストダウンが求められている外食産業のお客様から高く評価されています。

TOPICS 2

ISO9001・ISO14001の同時取得を目標に 品質向上・環境保全活動を推進しています

当社では、平成17年11月にISO9001(品質)とISO14001(環境)の国際規格認証を同時取得することを目標に、全社を挙げて品質向上および環境保全活動に取り組んでいます。特に包装用フィルムの製造販売、充填機器の販売に関わる業務においては、顧客満足向上や環境負荷低減の観点から、具体的な目標を設定。毎月に達成度の確認と見直しを実施し、継続的な改善を進めています。

<基本方針>

- 1 顧客満足度の高い製品とサービスを提供する。
- 2 品質向上および環境保全を配慮した設計・生産、販売活動を行う。
- 3 関連法規・条例などを順守し、環境汚染の予防と環境負荷の低減に努める。

■ 会社概要 (平成17年3月31日現在)

社 名 大成ラミック株式会社
Taisei Lamick Co.,Ltd.

所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1
〒349-0293

代 表 者 代表取締役社長 木村 登

設 立 昭和41年3月22日

資 本 金 24億860万円

事 業 内 容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズなどの開発製造販売
高速液体自動充填機「NT-DANGAN」、周辺機器の開発販売

従 業 員 数 291名(男子255名 女子36名)ほか
臨時従業員75名

主 な 事 業 所 本社・工場(埼玉県南埼玉郡白岡町)

営 業 所 東北、名古屋、大阪、福岡

■ 役員一覧 (平成17年6月22日現在)

| | |
|----------------|-------|
| 代表取締役社長 | 木村 登 |
| 専務取締役 (管理本部長) | 木村 義成 |
| 常務取締役 (R&D本部長) | 二瀬 克規 |
| 取締役 (営業本部長) | 村山 淳司 |
| 取締役 (営業本部副本部長) | 古村 博 |
| 取締役 (生産本部長) | 山口 政春 |
| 常勤監査役 | 里村 睦男 |
| 常勤監査役 | 裁松 修 |
| 監査役 | 山本 実 |
| 監査役 | 長谷川 忠 |

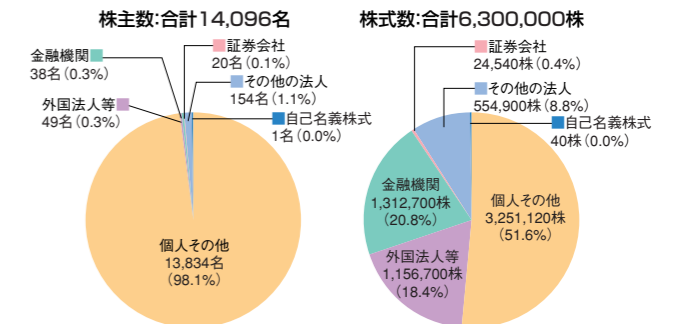
■ 株式状況 (平成17年3月31日現在)

・会社が発行する株式の総数 20,000,000株

・発行済株式総数 6,300,000株

・株主数 14,096名

■ 所有者別株式分布 (平成17年3月31日現在)



■ 株価/出来高の推移 (平成17年4月30日現在)

